

これからどうする？浸透性殺虫剤シンポジウム

Post-Neonics –What Next ? Symposium

日時:2016年6月18日(土曜日)午前10時から午後17時まで

場所:早稲田大学工学部 55N号館 1階第1会議室 (〒169-8555 新宿区大久保 3-4-1)

主催:IUCN 浸透性殺虫剤タスクフォース(TFSP)

1990年代半ばより、農業で浸透性殺虫剤、中でもネオニコチノイド系殺虫剤とフィプロニルが使われるようになってから、日本でも送粉昆虫の減少、生物多様性の減少、河川水や地下水汚染、人体汚染と健康障害が報告されるようになりました。これからどうしたら良いのか、アジア、オセアニア、EUの学者が一堂に会し、国際シンポジウムを開催します。会議の様子は下記リンクよりリアルタイムでウェブ配信されます。

<http://www.ustream.tv/channel/sTvT7NXXPgk>

世話人:平久美子(TFSP 公衆衛生 WG 座長、東京女子医科大学東医療センター)

参加費用:プログラム・資料代として1,000円を申し受けます。あらかじめ開催のご支援をいただいた方

<https://greenfunding.jp/sustena/projects/1553> は無料となりますのでお申し出ください。

席数に限りがありますので、参加希望の方は、メール(tfsp.phwg@gmail.com)またはあらかじめお知らせしているFAX番号にお申し込みください。

会場へのアクセス:

電車で 副都心線 西早稲田駅に直結

バスで 新宿駅西口から早稲田行き、都立身体障害者センター前バス停下車

山手線高田馬場駅から九段下行き、都立身体障害者センター前バス停下車



《プログラム》

初めのあいさつ 平久美子 9:50-9:55

歓迎の言葉 山田敏郎（金沢大学名誉教授）9:55-10:00

第 1 部:日本の研究者の最近の成果 10:00-11:30

- ・ 藤岡一俊 (Hawaii Institute of Molecular Education) 「ネオニコチノイド系殺虫剤の化学研究最前線」
- ・ 池中良徳 (北海道大学) 「ヒトのネオニコチノイド代謝(仮題)」
- ・ 川上智規 (富山県立大学) 「スリランカのネオニコチノイド中毒(仮題)」
- ・ 星信彦 (神戸大学) 「ネオニコチノイド系殺虫剤の標的と作用機序」

第 2 部:浸透性殺虫剤についての科学的知見(同時通訳付き)12:30-14:50

- ・ マーテン・ベイレフェルト・ヴァン・レクスモンド(TFSP 議長) 「浸透性殺虫剤と TFSP、歴史的展望」
- ・ ジャン・マルク・ボンマタン(TFSP 副議長) 「浸透性殺虫剤の世界的な統合評価書:ネオニコチノイド、送粉者、生物多様性、食品」
- ・ フランシスコ・サンチェス・バヨ(シドニー大学) 「水生環境中の浸透性農薬と大規模な生態系との関連」
- ・ 五箇公一(国立環境研究所) 「日本における浸透性殺虫剤の生態リスク評価-その進歩と挑戦」
- ・ 平久美子(TFSP 公衆衛生 WG 座長) 「ヒトのネオニコチノイド曝露と近時記憶障害」
- ・ 前川文彦(国立環境研究所) 「ネオニコチノイドの発達期曝露はマウスの成長後のいくつかの行動パラメータに影響を与える:動物モデルを用いた社会行動、性行動、情動行動評価の必要性」

第 3 部:浸透性殺虫剤に頼らない農業の試み(同時通訳付き)15:05-17:00

- ・ マイケル・ノートン(欧州アカデミー科学諮問評議会) 「ネオニコチノイドに関する EASAC の業績(仮題)」
- ・ ロレンゾ・フルラン(TFSP 代替農法 WG 座長) 「IPM とピットホール対策の互助保険による生産者保護:農耕作物へのネオニコチノイド使用の強力な代替案」
- ・ エリザベス・ルマウィグ・ハイツマン(TFSP 公衆衛生 WG 名誉書記) 「フィリピンでの浸透性殺虫剤の使用実態と WIA」
- ・ コン・ルエン・ヒョン(東南アジア地域センター、農業生物科学国際センター-CABI) 「生態工学-アジアにおけるネオニコチノイドなしのコメづくりへの戦略」
- ・ 渋川市 「渋川市選別農薬農法(愛称:しぶせん)、有機リンとネオニコチノイドを使わない農業の実践(仮題)」

終わりのあいさつ: マーテン・ベイレフェルト・ヴァン・レクスモンド 17:00-17:05

懇親会

[abt サイトのトップへ戻る](#)